



わかば

2018. 9. 29

第18-22月号

文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

重点目標 一人一人が輝く教育 ～期待登校・満足下校～

掲示物は、心温まり、心が豊かになります。・・・1年生国語科の「くじらぐも」

高等部の教室前の廊下に、現地校生徒たちのメッセージが幼少時や兄弟姉妹の写真、イラストなどとともに掲示してあります。いわゆる自己紹介だろうと思います。

内容は、生誕地や家族紹介、これまでにに行ったことのある所、お気に入りの場所などです。さすがに、アメリカの子どもたちです。アメリカ国内だけでなく、パリやリスボンなど世界の各地を家族で旅行しているようです。

私が最も目を引いたのは、「お気に入りの場所」です。国名や都市名をあげる中に、「心落ち着く我が家」「家族や友だちがいる我が家」なかには、「ウサギを入れたかごの横のクッション」などもありました。これらの文の生徒は、「家」が最も生きやすい、居心地の良い場所となって幸せに過ごしているようです。

写真を見ながら、心が温まる思いと微笑ましさを感じました。

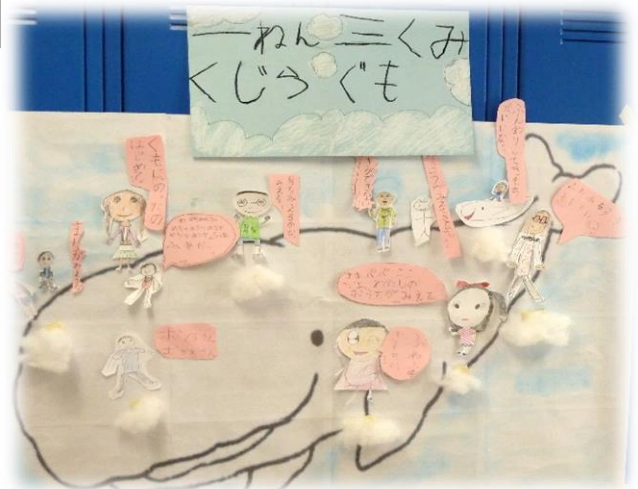
本校にも心温まる1年生の掲示物があります。

写真は、1年生の教室前のロッカーに掲示された国語「くじらぐも」の掲示物です。一人一人が、でっかいくじらぐもに乗った子どもになりきり、メッセージを書いています。例えば、

「ママ、パパ、ここだよ。わたしのおうちがみえる。」「おとうさん！おかあさん！」「くじらぐもにのって、日本にいきたい。」などです。

たどたどしい文字や絵が、見る者を心温かく、また心なやませてもらえます。一人一人を温かく見守り、大切に育てねばならないなと思いました。

各担任の三者三様のくじらの絵も楽しいです。



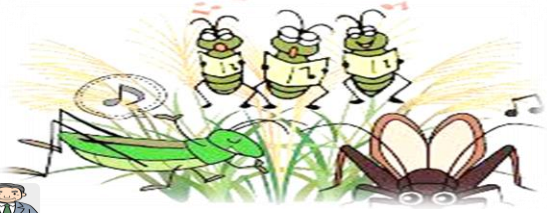
児童生徒の作品紹介 16



今回は、4年生の国語「秋の風景」で書いた俳句を紹介します。
※左のドラゴンは、中休みに6年生が制作していたわずか2センチほどの紙の作品です。手先が器用だと感心しました。 校長 信國寿敏



【4年生 国語「秋の風景」から 俳句】
秋が来た 松虫なくて いやされる
後藤 恵梨
松虫の 声はまるで ふうりんだ
藤本 晃大
美しや 楽しく鳴いて 松虫だ
高木 りた
秋の夜 松虫が鳴く いい音だ
メイデン キーファー



山の村 外のけしきは 山よそおう
鈴木 玲奈
山の木々 きれいにそまり 色がつく
小林 笑裡
色づく葉 きれいにそまる 木の葉っぱ
ホフマン 麻衣亜



ひと月前は、オレゴンも結構暑いところだなと思っていましたが、最近は、朝夕めっきり寒くなり、長そで生活となりました。アメリカでの初めての秋を迎え、家の周りや街並みの木々の葉も美しく色を変えようとしています。

このようなコメントを書くのも、虫の音や山々の木々の葉の色の変容を表現した4年生の俳句を、しみじみと日本の秋の深まりと重ね合わせながら読んだからではないかと思います。

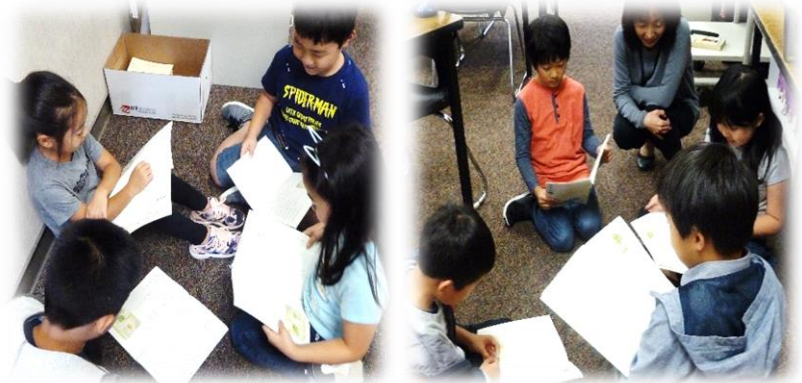
以前、勤務した校区に「鈴虫祭り」があり、秋を楽しんでいました。ちなみに、「松虫」と「鈴虫」は、古来は同じ虫と考えられ、時代や土地によって呼び名が異なっていたようです。大きさ、色、鳴き声の違いはあり、鈴虫は「リーンリーン」と聞こえ、松虫はおなじみの歌では「チンチロ チンチロリン」ですが、実際は「ティッティリリッ」のようです。

「お手紙」のがまさんやかたつむりさんになろう！・・・学びの一つ「役割演技、動作化」

2年生の国語科学習に「お手紙」があります。友だちのかえるさんからの手紙を待ち続けるがまさんの心情を登場人物の役になりきり演技をして学びます。

お手紙は、かたつむりが配達するので、なかなか待ちわびるがまさんのポストまで届きません。場面ごとのがまさんの気持ちや願いなどを演技や動作を加えながら、疑似体験させて学びを深めていきます。

※写真掲載の了解を得ています。



アドバイスを受けながら、熱心に練習する子どもたち

「主体的、対話的な深い学び」をめざして・・・説明する活動、話し合い活動(中学部1年)

これからの学びのキーワードは「主体的、対話的な深い学び」です。そのためには、児童生徒が自ら進んで他の子どもたちと関わり、学びを深めていくことができる授業を展開することが求められます。

補習授業校の週1回の限られた時間数では、日本国内と同様な手法で学習を進めることは難しいものがありますが、説明したり話し合ったりすることを授業に仕組むことは可能ではないかと思えます。

写真は、中学部1年数学科「直線図形と移動」の授業風景です。この授業に「主体的、対話的な深い学び」の授業の一端を感じましたので、ご紹介します。

写真上は、松丸先生の軽快、軽妙な発問や指示のもと、これまでの作図の知識と技能を生かして、埋められたタイムカプセルの場所を表す文を手掛かりとして、場所を解き明かす学習です。

生徒たちは、投げかけられた課題に興味関心を高め、埋められた場所を見つけようとしますが、文の理解や作図の手順の違いなどから、いくつかの異なる回答となり、学習の面白さが増します。

写真中は、ノートを手全体の前で、探し出した場所や手順を説明している女子生徒です。

写真下は、女子生徒の説明を生かして、学びをつなぎ、深めている男子生徒です。それぞれの発表に、誰もが真剣に見入っていました。

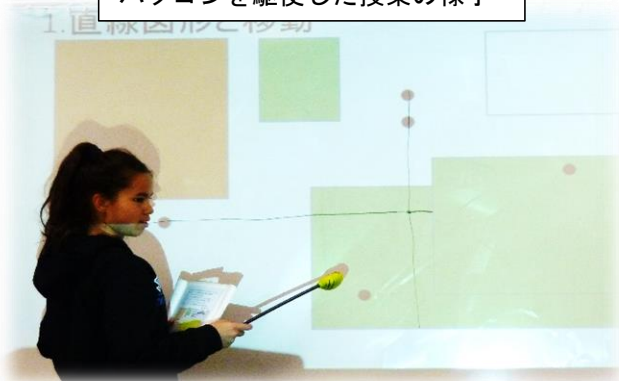
先生が学習を先に進めることも可能でしたが、あえて、隣の生徒や近くの生徒同士で説明したり、話し合ったりする活動を入れました。

この活動により、まさに、誰もが主体的に対話的に学びを深める授業となり、誰もが学習に参加している授業だと感心しました。

※写真掲載の了解を得ています。



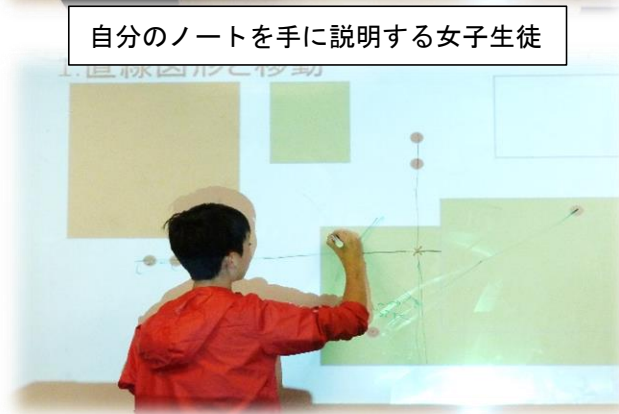
パソコンを駆使した授業の様子



自分のノートを手で説明する女子生徒



考えを交流し合い、学びを深める生徒たち



女子生徒の説明を生かし補足説明をする男子生徒



教師は、「子どもたちに、ゆっくりと時間をかけ、丁寧にわかりやすく教える」を最善と考え、そのように努めるものです。一方では、限られた日数と時間数、教科書の内容をうまくやり遂げなければならない責任もあります。多くの補習授業校は、限られた日数と時間数、指導すべき内容を踏まえながら、いかに学力をつけるかに奮闘、腐心しています。

学びへの興味関心を高め、子どもたち自身が積極的に授業に参加できるような授業を仕組んでいくことが、本年度の重要点である「学力を身につけさせる」につながるものと思えます。

「適切な生活・生徒指導のあり方」・・・平成31年度の年間計画に向けて

日本国内では、「生活指導」の言葉は、あまり使わず「生徒指導」になってきています。

(1)生徒指導とは、どのようなことでしょうか？

生徒指導とは、社会の中で自分らしく生きることができる大人へと児童生徒が育つように、その成長・発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけの総称のことです。

・さらなる社会的能力を獲得していくこと（社会性の育成）

・自己の幸福と社会の発展を追求していく大人になること（社会に受け入れられる自己実現）

そうしたことを願って、児童生徒の自発的かつ主体的な成長・発達の過程を支援していく働きかけのことを、生徒指導と呼んでいます。（出典 文部科学省 国立教育政策研究所のリフレットから）

(2)では、生徒指導は、いつ行うのでしょうか？

日本国内の全日校は、基本は、日常的な休みの時間、給食の時間や学習時間中に適宜に行う場合と年間を通して意図的、計画的に、道徳の時間や特別活動の時間に授業を行う場合があります。

しかし世間一般では、「生徒指導」と言えば、何か生徒間などで暴力や事故等の事案、事件が起きた際に対処、指導することと理解されがちです。本来は、そのようなことにならないように予防的に行うこと、支援していくことが生徒指導です。

(3)さて、ポートランド日本人学校の「生徒指導」は、どうでしょうか？

学校教育目標

（出典 平成30年度 学校要覧から）

「帰国後、日本の教育に円滑に適應できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持に、併せて生活・生徒指導を行う。」

〈重要点〉一人一人が輝く教育 → 学力を身につけさせる。

→ 適切な生活・生活指導のあり方

一事徹底：明るいあいさつ

上記のように「併せて生活・生徒指導を行う」とあり、学力と一緒に生活・生徒指導を行うことを目標とし、重要点に具体的なイメージとして「一事徹底：明るいあいさつ」としています。

本校は、限られた日数と時間数ですので、生徒指導に関わる道徳や特別活動の授業を設けることができず、日常の中での気づきの中から自発的かつ主体的な成長・発達を願った一事徹底が中心です。

(4)一事徹底とは？

○当たり前のことが当たり前でできる力が備わる。

○諦めずにやり抜く力が備わる。

○1つのことをやり抜けたことが自信となって成長する。

○「一事徹底」にチャレンジする積極性が芽生え、「万事徹底」へのステップを歩みだせる。

本校の「一事徹底」の重点が「明るいあいさつ」となります。



長々と書いてきましたが、学校教育目標や重要点等々は、体でいえば「骨格」であり、目指すべき方向を示すものです。本年度も半分を終えようとしており、平成31年度の年間計画を作成する時期を迎え、あらためて2ページにわたって、重要点の「学力を身に着けさせる」「適切な生活・生活指導の在り方」を考えてみました。

また、本年度は、金曜授業日を2日間減らし、6時間授業日を10日間設定した年間計画の基に実践しています。児童生徒だけでなく、送迎や宿題などにご支援をいただく保護者、指導をする先生方にとって、どうであったかなどの成果と課題を整理して、教育委員会に諮り、連携して平成31年度の年間計画を作成していく予定です。